

家庭教育学級新聞

発行 山武市教育委員会生涯学習課
山武市殿台 279-1
TEL 0475-80-1456 FAX 0475-80-1400
Email: shogaigakushu@city.sammu.lg.jp

今年度、多くの市内幼稚園・保育所・こども園で大人気だった「3B体操」。
ご紹介するのは、平成23年10月24日（月）の緑海幼稚園の家庭教育学級です。
当日は、朝10時から2時間ほど最初は親子で、次にママたちだけで気持ちよく体を動かしました。みなさん汗をかきながらも、楽しくリフレッシュできました。
参加したみなさんからは、「またやりたい」「もっとみんなに知ってほしい」「姿勢が悪いから体を伸ばせてよかった」などたくさんの感想が出ました。



親子で楽しく緑海幼稚園のみなさん

みんなで3B体操！

曲に合わせて動くのが楽しい



緑海幼稚園

※今回はベルとベルター
を使用しました

「3B体操」って？

ボール・ベル・ベルター（3B）を使い、すべての動きを音楽に合わせて集団で行う健康体操です。



親子で一緒に体操ということではほとんどのママが参加してくださいました。普段の生活の中ではゆっくり一緒に体操をしたり体を動かして遊ぶことは意外とできないので、良い時間になってくれたと思います。
これをきっかけに家庭でも一緒に体を動かしたり遊んだりできるといいですね。
新年度もぜひ取り入れてみてください。

リレーコラム第6回

我が家の子育て

山武市立豊岡小学校
教頭 佐久間啓子



「朝だよ、起きて〜」台所から声をかけると「おかあさん、おこってる？」我が家の末っ子が三歳から四歳くらいにかけて、毎朝決まって一番初めに口にする言葉でした。
私はそのことばにカッとなり、「おこってないよっ」と怒ってしまふのでした。時間に追われ、言っている言葉とされている「速くしなさい」をいつも言っていたような気がします。
我が家は三人の子供を授かりました。長男と長女は二歳違い。長男が六年、長女が四年生の時に次男が生まれたので、末っ子と上の子供たちはずいぶん年が離れています。すでに三人とも成人し、それぞれに家を出て暮らしています。長女は結婚して二人の子供がいます。私は二人の孫を持つおばあちゃんでもあります。
改めて子育てについて考えてみると、私はたくさん周りの人たちから助けてもらっていたと思います。長男が生まれたときは、まだ育児休業制度がありませんでした。長男は、そのころ大原と一緒に暮らしていた義父が面倒をみてくれました。そのせいか長男はじいちゃんっ子で東金に引越した後、高校は義父の家から通ったほどです。長女が生まれたときには、できたばかりの育児休業を取得し、十ヶ月間育児に専念することができました。
長男が小学校一年生になるときに東金に引越してきました。長女は四歳。保育所には入れませんが、一ヶ月間は慣らし保育とのことで、お昼までしか預かってもらえませんでした。その時は、実家の母が助けてくれました。また、土曜日や夕方の迎えも保育所から紹介された方をお願いすることができました。近所に知り合いもいなかったため、大変ありがたかったです。その方には次男の時もお願ひし、我が家にとっては本当になくてはならない人になりました。
こんなわけでたくさんの方々にお世話になりながらの生活でしたので、私たちが一番に心がけたのは、「ありがとう」が自然に言える子にしようということでした。家の中でもお互いに気をつけて、何かしてもらったら「ありがとう」を意識して言うようにしました。例えば「新聞とって」と頼んで取ってきてくれたら「ありがとう」というようなことです。どんな小さなことでも頼んでもらったら必ず「ありがとう」を言う。子供たちが「ありがとう」を言い忘れたときは「ありがとうでしよう。」と催促して言わせるようにしました。

た。また、いつどこで誰にお世話になっていたのか分からないので、よその人に何かしてもらったら必ず報告するということも、口をすっぱくして言いました。友達の家でお昼をいただいたり、一緒に遊びに連れていってもらったり・・・時にはヤクルトのおばさんに転んですりむいた膝に絆創膏を貼ってもらったりとどれだけの膝に絆創膏を貼ってもらったことかわかりません。
皆さんの好意に少しでもお返しできればと、やがて夫は子供会のソフトボールの監督を引き受け、その後子供会の会長として地域の子供たちや親たちとのつながりができてきました。その頃の子供たちは、高校生になっても夫のことを「会長」と呼んで慕ってくれて、今では地域にもや々と根付いてきたのかなど感じています。
私は本を読むのが好きです。子供にも本の好きな子になってほしいと思っていました。母親からたくさん本を読んでもらった子は、情緒も安定し豊かな心の持ち主になるという話しも聞いていましたので、なるべくたくさん本を読んでもあげようと思いました。でも、上の子供たちのときはなかなかできませんでした。上の子供たちのときは難しかったのと子供たちがあまり喜んでいないのです。話しが違ふぞと思いつつも末っ子が生まれたときも本を読んでみました。すると目を輝かせて聞き入り「はいおしまい。」と本を閉じると、さかさず「もう一回。」と言うのです。「はいおしまい。」もう一回。」同じ本を何度でもさがみます。ここでやっと私はわかりました。本の好きな子もいればあまり好きではない子もいるんだなと。
その子の個性に合った好きなこと、やりたと思うことをさせてやるけれども最後まで続けるということも、我が家の方針でした。長男はサッカー・少林寺拳法・卓球、長女は水泳・エレクトーン・卓球とそれぞれの目標達成まで続けられるよう応援しました。次男は今年の三月やとと大学を卒業してくれと思っていますが、小学校四年から始めた卓球をまだ続けています。将来も卓球に関する仕事に就きたいと考えているようです。
子育ての期間中は、仕事も家事も忙しい毎日でしたが、今思うととても充実した日々でもあった気がします。今では直接手を出したり口を出したりすることはありませんが、もし子供たちが困ったり疲れたりしたら、相談相手にしてもらえれば嬉しいなと思います。

※このコーナーは、リレー形式で順次自分の子育てについて、エピソードや思うことなど気ままに書いていただく予定です。お楽しみに。



入学・進級に向けて



3つの時間を固定して規則正しい生活を

基本的な生活習慣をしっかりとすることで、授業を集中して受けることができ、学習意欲の向上につながっていきます。

「起床」「晩ご飯」「就寝」この3つの時間を固定すると生活習慣が整えやすくなります。

小学校低学年では10時間、高学年でも9時間の睡眠が必要です。

お父さんお母さんの生活時間を見直して、子どもの生活時間にあわせて生活しましょう。



小学校入学前は

「学校は楽しいよ。新しいこともたくさん教えてもらえるよ、お友達が増えるね」と緊張感を和らげ学校が好きになるような声掛けをしよう。



子どもの話を聴こう

『家庭が楽しい子は学校も楽しい!』

・・・これはあるアンケートの結果です。

子どもにとって楽しい家庭とは、「家族の会話が楽しい」「親が自分の話をよく聞いてくれる」そんな家庭です。

まずは子どもの話に耳を傾けてみましょう。

家庭での会話は、社会でのコミュニケーション力につながっていきます。

ちょっと気になる!
・・・お箸の持ち方



お箸の持ち方は大丈夫ですか？鉛筆の持ち方にもつながっています。鉛筆が正しく持てないと、学年が進むにつれ勉強していても疲れてしまいます。これからでも練習させてみましょう。



オススメ

親子で改まって話すのに気恥ずかしさや難しさを感じたら、掃除や食事の手伝いなどをさせながら、並んで話すのがおすすめです。面と向かって話しにくいことも自然に心を開いて話せます。

家庭教育学級第2回講演会報告



今年度の第2回講演会が、去る11月10日(木)午後1時からぎくプラザで開催されました。

今回は講師に教育ジャーナリストの青木悦氏をお迎えし、時にユーモアを交えながら心がほっとするようなお話を聞くことができました。

お話のポイント

親が「幻の子ども像」を追っていると、子どもは親に好かれるために良い子を演じてしまう、無理をして良い子のふりをして親に弱さを見せられない子になっていきます。

その結果、たとえいじめを受けていても打ち明けられなかったり、最悪は少年事件にまで発展してしまうこともあるということです。

親も子どもに弱みを見せたりして、家の中で家族が正直にすることが大事だそうです。

「兄弟げんか」も素を出せているということだそうです。安心しますね。



「幻の子ども像」とは
青木先生が名付けた、親が心の中に勝手に作り上げてしまうスーパースターのような子ども像のことです。
わが子に対する不満をひっくり返してみてください。
「朝はさわやかに一人で起き、忘れ物いっさいないカバンを持って元気に家を飛び出し、皆にはさわやかにあいさつし、全教科に関心を持ち、友だちにはやさしく・・・ゲームは少しだけでテレビを見ずに早く寝る」みなさんの心の中にもありませんか？

【青木先生の著書】
『子どものためにという前に』『泣いていいんだよ』『なぜそんなにまわりを気にするの?』(けやき出版)『幻の子ども像』(坂本鉄平事務所)などがあります。ぜひ読んでみてください。



最近、日本の現状そしてこれから先の日本の姿が示されました。人口減社会に入り、43年後の2055年には2.5人に1人が65歳以上の高齢者になり、4人に1人が75歳以上の高齢者になるそうです。その社会を今の子どもたちは生きていかなければなりません。

すでに世の中は大きく変わってきています。会社のなかの公用語は英語だとか、採用は日本人には限らないなど、これからもっと増えていくかもしれません。また円高により日本の企業が海外に出してしまう空洞化が懸念されています。そうなれば日本での就職先がどんどん減ってきてしまいます。

そんな世の中にこれから出て行かなくてはならない子どもたちを育てているみなさんは、どんな場所でもどんな時でもたくましく生き抜くことができるようにわが子を育てていく必要があります。そのためには、子育てについてこれまで以上に学んで行く必要があります。ぜひ身近な家庭教育学級や教育委員会主催の子育て関係の講座など積極的に利用していただきたいと思います。

担当 加瀬